

- 12 人は鉄を、北からの鉄や青銅を 砕くことができるだろうか。
- 13 わたしは、あなたの財宝、あなたの宝物を、 あなたの領土のいたるところで、戦利品として、ただで引き渡す。 あなたの罪のゆえに。
- 14 わたしはあなたを、 あなたが知らない地で敵に仕えさせる。 わたしの怒りに火がつき、 あなたがたに向かって燃えるからだ。」
- 15 「【主】よ、あなたはよくご存じです。 私を思い起こし、私を顧み、迫害する者たちに、私のために復讐してください。 あなたの御怒りを遅くして、私を取り去らないでください。 私があなたのためにそしりを受けていることを知ってください。
- 16 私はあなたのみことばが見つかったとき、 それを食べました。 そうして、あなたのみことばは、私にとって 楽しみとなり、心の喜びとなりました。万軍の神、【主】よ、 私はあなたの名で呼ばれているからです。
- 17 私は、戯れる者がたむろする場に座ったり、 喜び躍ったりしたことはありません。私はあなたの御手によって、 ひとり座っていました。 あなたが私を憤りで満たされたからです。
- 18 なぜ、私の痛みはいつまでも続き、 私の打ち傷は治らず、 癒えようもないのでしょうか。 あなたは、私にとって、欺く小川の流れ、 当てにならない水のようになられるのですか。」
- 19 それで、主はこう言われた。「もし、あなたが帰って来るなら、 わたしはあなたを帰らせ、 わたしの前に立たせる。 もし、あなたが、卑しいことではなく、高貴なことを語るなら、 あなたはわたしの口のようになる。 彼らがあなたのところへ帰ることがあっても、 あなたは彼らのところへ帰ってはならない。
- 20 この民に対して、わたしはあなたを 堅固な青銅の城壁とする。 彼らは、あなたと戦っても勝てない。 わたしがあなたとともにいて、 あなたを救い、あなたを助け出すからだ。 ——【主】のことば——
- 21 わたしは、 あなたを悪しき者たちの手から救い出し、 横暴な者たちの手から贖い出す。」

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2021年 1月 3日 (日)

礼拝メッセージノート

「 自己憐憫から愛に満たされ 」

| エレミヤ書講解-37 エレミヤ書15:5-21 他 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 15章 】

- 5 エルサレムよ、 いったい、だれがおまえを深くあわれむだろう。だれがおまえのために嘆くだろう。 だれが立ち寄って、おまえの安否を尋ねるだろう。
- 6 おまえはわたしを捨てた。 ——【主】のことば—— おまえはわたしから退いて行ったのだ。 わたしはおまえに手を伸ばし、おまえを滅ぼす。 わたしはあわれむのに疲れた。
- 7 わたしはこの地の町囲みの中で、 熊手で彼らを追い散らし、 彼らに子を失わせ、わたしの民を滅ぼす。 彼らはその生き方から立ち返らなかつた。
- 8 わたしはそのやもめの数を 海の砂よりも多くする。 わたしは若い男の母親に対し、 真昼に荒らす者を送って、 突然、彼女の上に苦痛と恐怖を臨ませる。
- 9 七人の子を産んだ女は打ちしおれ、 その息はあえぐ。 彼女の太陽は、まだ昼のうちに沈み、 彼女は恥を見て、屈辱を受ける。 わたしは彼らの残りの者を、彼らの敵の前で剣に渡す。 ——【主】のことば。」
- 10 ああ、悲しいことだ。 私の母が私を産んだので、 私は全地にとって争いの相手、 また口論する者となっている。 私は貸したことも、借りたこともないのに、 皆が私を呪っている。
- 11 【主】は言われた。「必ずわたしはあなたを解き放って、 幸せにする。必ずわたしは、わざわいの時、苦難の時に、 敵があなたにとりなしを頼むようにする。

(4ページへ続く)

◆ はじめに

| 否定的感情をどう処理するか

1. 聖書から自己憐憫の醜さと、陥ってしまう人間の弱さと罪、そしてその回復について考える。

◆ エレミヤ書のアウトライン (全7点)

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| ①ヨシヤの統治下で預言者としての召し(1章) | ②ゼデキヤ統治以前の預言(2~20章) |
| ③ゼデキヤ統治下での預言(21~29章) | ④12部族の将来(30~39章) |
| ⑤エルサレム崩壊後もそこに留まる者へ(40~42章) | |
| ⑥エジプトで語られた周辺諸国への言葉(43~51章) | ⑦エルサレム崩壊の預言の成就(52章) |

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 自己憐憫でなく愛によるあわれみを

* このメッセージは、預言者の苦悩から、自己憐憫からの回復について学ぶものである。

=====

I エレミヤの否定的感情 (5~14節)

1. 生まれたことへの後悔

(1) エルサレム滅亡の預言

- ① 5~9節 エルサレムのために嘆く人が一人も居なくなる程に破壊される。
「誰が立ち寄って安否をたずねるか」：跡形もない、完全な破壊。
* 以前のさばきの預言：疫病、剣、飢饉、捕囚に含まれる。
- ② 参照 2歴28：6「やもめ」、1サム2：5「七人の息子」→効果がない。
- ③ さばきを免れることはできない：民の罪は神の忍耐を超え、回帰不能に。
* 度重なる律法違反(特に偶像礼拝)、マナセ王の罪が分水嶺。

(2) 預言者は神の言葉をそのまま伝えるのが使命である。

* このような不吉な預言を誰が聞いたがるだろうか。

(3) 否定的感情の理由

- ① このような悲惨な預言を語らざるを得ないこと。
- ② 人々が自分に敵対することへの恐れ。
* 「貸したことも借りたこともない」：全く責任がない、まっすぐな生き方。
なぜ、国中が私に敵対するのか？
- ③ ついには、生まれてきたことさえも後悔するようになった。

2. エレミヤに対する神の答え (11-14節は17：1-4に基づくと思われる)

(1) 励ましのことば：あなたを解放する。神の守りの保証。

(2) 敵対している人々が、執り成しを求めてやってくる。 21：1~2, 37：3, 42：1~6

- (3) 免れないさばきの中で：①前7世紀頃の優れた鉄(北から)は、黒海地域から入る。ユダにとっては不十分で、バビロンには太刀打ちできない。

◆ まとめ：神は、エレミヤの嘆きに耳を傾け、苦悩を知ってくださる。

II さらなる苦しみの訴え (15~18節)

1. 神の側に立つ者の苦しみ

(1) 預言者の痛み：信仰を選び取る時に生まれる、世の価値観との乖離。

霊的な事柄に対する乖離には、絶対に妥協できない。

① どの時代の聖徒も、程度の差こそあれ例外なく受ける苦しみ

* クリスマンになったために、新しい問題や葛藤を抱え込むようになる。

(2) 試練の理由について問いかけたくなる：生まれてきたことへの否定的な言葉

① 親戚たちまでも敵に回ってしまう。

② みことばを丹念に聞き、自分の一部になるくらい吸収した。

* 聖なる怒りに満たされた→民の戯れのわざには、一切参加していない。

* しかし、エレミヤの傷は癒されなかった。

2. 苦難を訴える際の過ち：神を「小川」と表現した→自己憐憫による信仰の停滞。

(ワジ：いつ干上がるか、当てにならないという意)

* 客観的な視点を失い、自分の内の傷のみに目が行ってしまう。

感情的な病気であり、また罪である。

III 信仰に立ち返れ (19~21節)

1. 神の叱責と励まし：エレミヤの不平に対して、叱責する

(1) 「もし帰ってくるなら」=悔い改めを促すことば

① 預言者としての召命を失う所まで来ていた。

(2) 「わたしの前に立たせよう」=再び職務に就かせるという意味

① もしエレミヤが神のことばを伝えるなら、彼は神の口のようにになる。

* 預言者は民に迎合するのではなく、神のことばに立ち返るべき

② エレミヤは民に対して堅固な青銅の城壁のようにになる。 1：18~19の約束の再確認

2. エレミヤの回復：以後、もはや不平を口にすることはなくなった。

◆ まとめ：自己憐憫でなく愛によるあわれみを

(1) 自己憐憫は、人間の醜い部分であり、自己の内でループする。罪である。

(2) 愛によるあわれみは、他者の苦しみを分かち合い、和らげたいと願う感情。

他者の必要を見出し、補い力づけようとする。人間の優れた感情の一つ。

* 愛によるあわれみは、人をさらなる愛の行動に駆り立てる。

(3) あなた個人に示された神のあわれみへの感謝を忘れない。テト3：5

* 十字架の恵みの深さ、高さ、広さをいつも覚える。エペ3：17-19